

1 宮崎県の研究主題（R8～10年度）

児童生徒の Well-being につながる体育科・保健体育科学習

～ 学びに向かう力を育む「ひなたの学び」を踏まえた授業実践を通して ～

2 主題設定の理由

(1) Well-being とは

第4期教育振興基本計画において、ウェルビーイングは「身体的・精神的・社会的に良い状態」として定義づけられ、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものとされており、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念であると示されている。

ユニセフ・イノチェンティ研究所の報告書「レポートカード 19」によると、43カ国の子どもたちのウェルビーイングを相対的に比較した総合順位表が示されており、その中で日本は、身体的健康の項目において1位である一方、精神的幸福度においては32位と、調査に参加した国の中で中位より低い値を示している。

スポーツと Well-being の関連では、第3期スポーツ基本計画において、スポーツの捉え方として「『する』『みる』『ささえる』という様々な形での自発的な参画を通して、『楽しさ』や『喜び』を感じることに本質をもち、人々の生活や心をより豊かにする『Well-being』の考えにつながる」ことが示されている。

(2) 学習指導要領の趣旨

現行の学習指導要領では、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理され、育成を目指す資質・能力の明確化が図られた。

その中で、体育科・保健体育科の基本的な考え方としては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、体育・保健体育の見方・考え方として、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けることや、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けて指導することが示された。また、指導内容については、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って示すとともに、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように示す必要があるとしている。

(3) 宮崎県学校体育研究会が進める研究

本県では、これまで、学習指導要領の趣旨に基づき、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習の具体的な実践を通して、校種の接続及び発達の段階に応じて系統化された指導内容に対する指導方法・評価の工夫を行う、いわゆる「つながりのある学習」の研究に取り組んできた。その中で、他校種との共通の領域における効果的な教材等の活用等、一定の成果があった一方、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」に重きを置いたことで、育成を目指す三つの柱のバランスのよい育成等について課題が出てきた。

そこで、令和8～10年度は、本県が推進する「ひなたの学び」を踏まえた授業づくりの研究に取り組み、児童生徒が学ぶ意義を見いだせるように、教師の意図的な指導と児童生徒の学び方を授業構築の両輪として研究を進め、児童生徒の豊かなスポーツライフの実現に向けた資質・能力の育成を図るとともに、授業者を含めた、体育・保健体育の授業にかかわる宮崎県の子どもたちのウェルビーイングの向上を目指す。

※ 「ひなたの学び」・・・三つの資質・能力のバランスのよい育成、学びのプロセスや学ばせ方を見直した授業改善に向けた視点として、本県が目指す子どもの学びに向かう姿を、わかりやすい言葉で整理したもの。



（「ひ」とりひとりが問いをもち、「な」かまとなって学び合い、「た」かめよう深く考える力）

3 研究を進めるにあたって

○ 「ひなたの学び」の推進

- ・ ひとりひとりが問いをもちながら、学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組む児童生徒を育てる授業づくりを目指す。
- ・ 仲間との協働や人との対話を通じ、新しい発見や豊かな発想、自己の考えを広げ深めること等につながる授業づくりを目指す。
- ・ 一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と感じたり、これまで考えもしなかったことにまで考えが深まったりするような授業づくりを目指す。

4 研究の仮説

学びに向かう力を育む「ひなたの学び」の視点から授業づくりを行うことで、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力が育まれ、持続的な身体的・精神的・社会的に良い状態（ウェルビーイング）の実現につながるであろう。

5 研究の概要（研究構想図）

